

介護ニーズ最前線

団塊の世代を知る

阪本 節郎

人生100年時代 未来ビジョン研究所 所長

第4回

利用者が利用者を励ます
介護施設

今後利用者として「団塊の世代」が激増していくなか、新たな高齢者像を知り、介護ニーズを理解するため、団塊の世代の実情や志向、団塊の世代がもたらす介護現場への影響について解説します。



さかもと・せつお ● 1975年早稲田大学商学部卒。株博報堂入社。プロモーション企画実務、研究開発に従事後、企業のソーシャルマーケティング開発を推進。2000年にエルダービジネス推進室、11年に新しい大人文化研究所を設立。さらに、19年に独立し当研究所を創設。現在、所長。著書『50歳を超えたらもう年をとらない46の法則』（講談社＋α新書）『シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか？新しい大人消費が日本を動かす』（日経新聞出版社、韓国版、台湾版）他

大学紛争後地域のNPO活動を
はじめた団塊世代

しばしば団塊世代の代名詞のようになれるのは1960年代後半の大学紛争ですが、それが一段落すると、公害問題や環境保護活動など地域の活動へと舞台を移していきました。とりわけ企業戦士としてサラリーマンになっていた男性と対照的に、地域に入ってきた女性に従事する女性もいました。後年、そうした女性たちが地域のNPO活動として取り組んだのが介護であり、2000年の介護保険制度導入期に、地域に

おける介護NPOのリーダーの多くは団塊女性でした。

団塊世代の社会性と「互助」

団塊世代は米国のヒッピーもそうでしたが、ある種の「理想主義」的な志を持っていたといえます。それはその後の環境保護活動にも、また生協における食の安全安心などの活動にもつながったといえるでしょう。

また、団塊世代のもう一つの特徴として、「仲間」が挙げられます。若者の頃に「断絶の時代」と言われ、ジェネレーションギャップが

話題となりました。親や学校の先生などの大人は信用できない、同世代の仲間しか信じられない、というような風潮がありました。

実際、音楽でいえば、ロック、フォーク、ポップスなどは親世代には全く理解できなかったものでした。この「理想主義」的なところと「仲間」とをうまく引き出すことができれば、「互助」が可能になるでしょう。

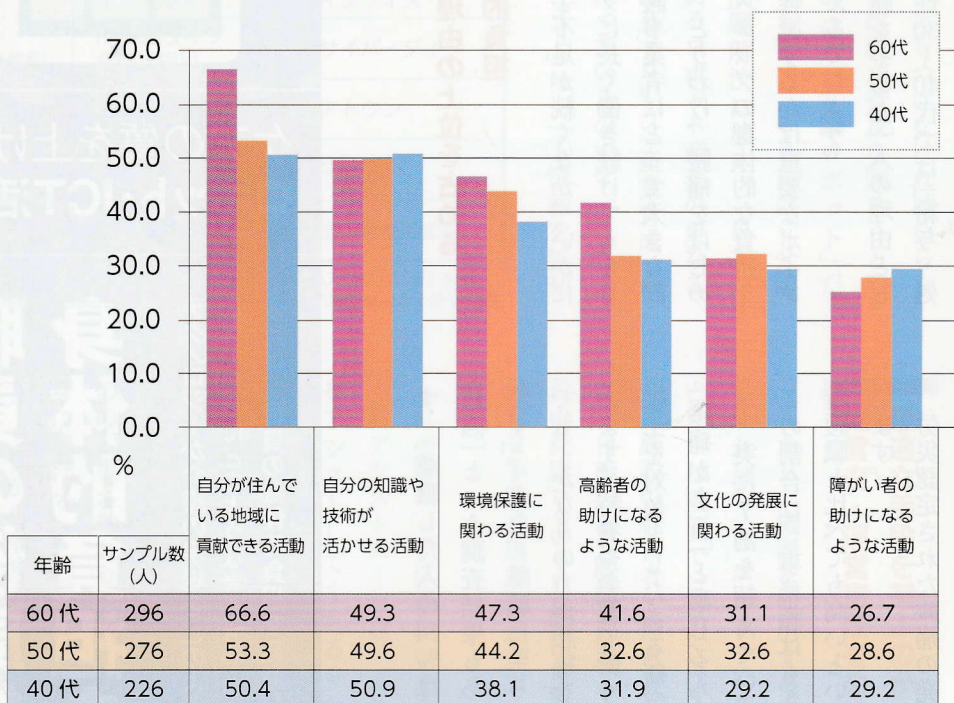
高齢者の社会参加ということは10数年いわれてきましたが、「参加してみたい社会貢献活動」に関する調査結果（[図表参照](#)）を見ると、団塊世代を含む60代が他の年代よりも高い項目が多く、「自

分が住んでいる地域に貢献できる活動」が66・6%、「自分の知識や技術が活かせる活動」49・3%、「環境に携わる活動」47・3%、「高齢者の助けになるような活動」41・6%となっています。最近、介護施設で要介護者として入って来たにもかかわらず、「自分ができることはないでしょうか」と言ってくる利用者がいると聞いたことがあります。

期待される最大の役割は
「コミュニケーション」

とはいえ、要介護者であって専門的な知識も訓練もない利用者

図表 今後参加してみたい社会貢献活動は



出典：博報堂新しい大人文化研究所調査

介護を依頼するわけにはいきません。最も期待される役割は「コミュニケーション」です。実は、高齢期に必要とされることも「コミュニケーション」です。独居老人・孤独死の問題はまさにコミュニ

ケーションの欠如です。しばしば元気がなく辛い環境にある高齢者はどうすればいいのかという相談を受けますが、一人でも二人でも似たような境遇を語り合える仲間を持つことが重要です。さらに言

えば、若い介護職員にとっても、あまりないがしろにできないのが「利用者の話し相手」で、他にやるべき仕事は次々とあり、そのジレンマで悩む職員も多いのではないのでしょうか。

そこに団塊利用者が互助をする意味があります。以前、男性の要介護者に人気のヘルパーさんは二種類あるといわれました。一つは若い女性のヘルパー、もう一つは同年代の男性ヘルパーで、それは軍隊の話ができるからでした。やはり、高齢期になって要介護になり辛い状況にあるときに話し相手がいる、自分のことをわかってくれる、ということが非常に大きな違いになります。

以前、介護家族に要介護者が喜ぶことの調査をしたときの答えが「自分が輝いていたときの話」でした。したがって、若い頃の懐かしい「うた」やスターの話、あるいは、仕事で活躍したときの話などを、同時代をともに生きてきて「わかり合える」相手とできるということは、何よりもうれしい気持ちになるでしょう。そのうえで、「いやあ、あなたまだ元気だよ」などの「励まし」を受けられれば、

生きる糧になると思われます。

団塊世代による 介護施設の進化形

さらにいえば、介護施設の日々のレクリエーション活動などについて、ある程度団塊の利用者にお願いくることもありそうです。

たとえば、ある介護施設の一週間のメニューでは、月曜日「書道」、火曜日「カラオケ」、水曜日「お茶会」、木曜日「絵手紙」、金曜日「映画鑑賞」となっています。このうち、団塊世代であれば、カラオケと映画鑑賞は得意な利用者がいます。フォークを歌う会とか、アメリカンニューシネマを観る会なども考えられるかもしれません。妙な主導権争いなどにならないようにルールを設定する必要があるとは思いますが、うまくコトを運べば、教える利用者は意気に感じ、若い職員の負担は減る、参加する利用者は喜び聞く耳を持つという三方得になるでしょう。

利用者が利用者を励ます介護施設、これが団塊世代が利用者になるときに想定できるひとつの介護施設の進化形になりそうです。